

高山 純一 教授 工学博士

Jun-ichi Takayama

✉ jyunichi.takayama@komatsu-u.ac.jp

研究 Keyword

交通まちづくり, 地域公共交通, 救急医療・救急搬送, 防災計画, インフラ維持更新, 交通事故分析, 自転車ネットワーク

プロフィール

1979年 金沢大学大学院工学研究科修士課程土木工学専攻 修了
1979年 金沢大学 工学部 建設工学科 助手
1988年 京都大学より工学博士の学位取得
1990年 金沢大学 工学部 土木建設工学科 助教授
1998年 金沢大学 工学部 土木建設工学科 教授
2021年 公立小松大学 特任教授
2022年 公立小松大学 教授

研究分野

工学(土木工学:土木計画学, 交通工学, 都市計画)

所属学会

土木学会, 日本都市計画学会, 交通工学研究会, 日本モビリティ会議, 地域活性学会等

専門分野・研究分野

交通工学、都市計画、防災計画を活用した安全・安心な交通・防災まちづくり研究

交通工学(交通計画)、都市計画、防災計画等の基礎理論をベースとして、持続可能であり、安全で、安心できる地域、ならびに都市を創造することを目的に、これまでストックされてきた各種データ、ならびにこれから収集可能なデータを活用して、地域(都市)が抱える課題を明らかにする。そして、それらの課題を解決するための地域づくりの計画やまちづくりの計画立案を進める。また、地域(都市)の目指すべき目標(将来ビジョン)を明確にして、交通まちづくりを進めるための具体的な計画の立案、さらに、その実行を行う(社会実装を進める)ための手法等の開発を目指す。

研究内容

安全・安心な地域づくり、まちづくりを目指すAI、IoT、データサイエンス研究

地域づくり、まちづくりを進めるためには、その地域(都市)の現状や抱える課題を明らかにするとともに、その課題を解決するための方策を立案し、それを実行(社会実装)することが求められる。これまで、わが国では統計法により特に重要な基幹統計(56統計)の他に、一般統計として各種統計データの蓄積がある。また、最近ではICTを活用した時系列的なデータ(膨大なデータ)の収集も可能となってきた。その一方で、これから迎える人口減少や超高齢社会を想定した地域課題の解決も重要となる。ここでは、個人情報秘匿したうえで、救急医療、救急搬送、国民健康保険データ、都市基礎調査データ、交通流動データ等を活用して、地域包括ケア計画の策定、災害時要配慮者の避難支援計画の策定、3次救急医療計画の立案、また自動運転自動車を活用した地域公共交通計画やカーシェアシステムの導入計画等の検討を行う。また、インバウンドを含めた観光需要の予測とその結果を活用した広域観光連携の推進、陸(新幹線、高速道路)・海(クルーズ船)・空(空港)の連携による観光推進策の策定など、観光研究についても実行する。

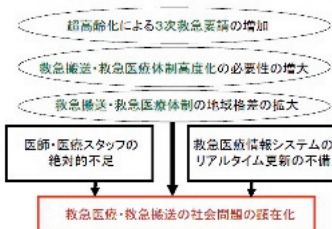


図1. 救急医療を取り巻く課題

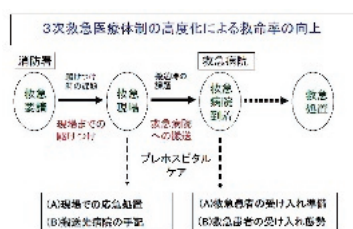


図2. プレホスピタルケアの重要性と救急搬送の役割



目指すは、まちづくりのハードソフトの融合研究

シーズ・地域連携テーマ例

- 地域の安全・安心と救急医療・救急搬送研究
- 国民健康保険データ等を活用したケアエリア研究
- 各種既存データを活用した防災まちづくり研究

受賞

- 2011年7月、JCOMM、The JCOMM Project Award 2011「JCOMMプロジェクト賞」
- 2012年9月、金沢市、平成24年度 第33回金沢市文化活動賞
- 2019年6月、国土交通省、令和元年度 国土交通大臣表彰 都市計画法・建築基準法制定100周年記念

論文

- 大規模地震災害発生直後を想定した要配慮者の存在位置・ニーズ把握ツールの有効性に関する基礎的検討、共著、土木学会論文集A1(構造・地震工学)、Vol. 77, No. 4, p. 1_649-1_658, 2021年3月
- コンクリート構造物のびびり画像を用いた健全性の診断支援に関する基礎的研究、共著、土木学会論文集D3(土木計画学)特集号、Vol. 76, No.5, p.1_297-1_304, 2021年4月
- Analysis of the Relationship between Age and Violation of Traffic Laws and Ordinances in Traffic Accidents on Children, 共著, Sustainability, 14(19):12778, 2022年4月
- Remote Bridge Inspection and Actual Bridge Verification Based on 4G/5G Communication Environments, 共著, Electronics, 12(14), 2023年7月

書籍等出版物

- 地方都市の再生戦略、共著、学芸出版社、2013年3月
- 交通まちづくり：～地方都市からの挑戦～、共著、鹿島出版社、2015年7月
- 地域包括ケアとエリアマネジメント、共著、ミネルヴァ書房、2019年3月

競争的資金等の研究課題

- 地域包括ケアシステム構築を目指すエリアマネジメントのための国保データベースの活用、日本学術振興会、挑戦的萌芽研究、平成27年度～平成28年度
- 超高齢社会における医療・福祉・介護の一体管理と3次救急医療・救急搬送の高度化研究、日本学術振興会、基盤研究(B)、平成29年度～令和元年度
- 超高齢社会における医療・福祉・介護の一体管理と3次救急の高度化・5Gの活用研究、日本学術振興会、基盤研究(B)、令和2年度～令和4年度

社会貢献活動

- 富山市都市計画審議会・委員(2005年～2019年9月)・会長(2019年10月～現在)
- 交通工学研究会・理事(2009年5月～2021年6月) 日本モビリティ・マネジメント会議・理事(2009年6月～2020年6月)
- 土木学会・理事(2017年6月～2019年6月)

盛永 審一郎 客員教授

Shinichiro Morinaga

文学修士

✉ shinichiro.morinaga@komatsu-u.ac.jp

研究 Keyword

人間の尊厳・責任・交わり・実存

プロフィール

1975年3月 東北大学大学院文学研究科博士課程中退
1989年10月 富山医科薬科大学助教授(薬学部)
2002年10月 富山医科薬科大学教授(薬学部)
2005年10月 富山大学大学院医学薬学研究部(薬学)教授
2014年3月 富山大学退職・同名誉教授(現在に至る)
2014年4月 福井大学医学部客員教授(2016年3月まで)
2022年4月 公立小松大学大学院特任教授
2025年4月 公立小松大学大学院客員教授

研究分野

倫理学・応用倫理学

所属学協会

日本生命倫理学会・日本医学哲学倫理学会・東北哲学会

専門分野・研究分野

新しい倫理——心情倫理から責任倫理へ

倫理学とは、ソクラテス以来「善さ」とは何かを探求し、基礎づける学問である。カントに代表される近代の倫理学は「今とここ」の倫理学だった。顔と顔を向い合せる、空間と時間を共有する人間の倫理学だった。そこでの定言命法は、「自律的であれ」で、行為の動機を問う「心情倫理」だった。しかし科学技術を手にして行為する現代人は、地球的規模と遠い未来世代を射程距離にしている。しかも集团的規模でそのことを行う。だから、行為の結果を予見し、その結果に対して責任がある。この新しい倫理の定言命法は、「持続的であれ」であり、「責任倫理」である。私の研究分野は後者です。

研究内容

応用倫理学の諸問題を「人間の尊厳」概念を核に解明

- ①終末期医療 オランダ安楽死の法・倫理・制度について考察し、オランダ安楽死は、ヨーロッパ人権条約の3条の尊厳の侵害と8条の私生活を尊重される権利から基礎づけられること、2条の脆弱な生の保護と両立可能であるということ、さらにヨーロッパ生命倫理の4原則の「統合体」「自律」「尊厳」に基礎づけられていること、そして背後にヨーロッパ2000年の歴史において開花した『人格』概念があるということを解明した。
- ②生殖補助医療 「人間の尊厳」という概念を軸に、人受精卵に対する診断と研究利用に関する生命倫理地図を描いた。Ⅰ) 尊厳概念の批判、Ⅱ) 両立可能テーゼ、a) 外延的戦略、b) 内包的戦略、Ⅲ) 両立不可能テーゼについてそれぞれ論じ、その結果として胚は現実的人間でないとしても、潜在的に人間であり、現実的権利で保護されるということ、『疑わしい場合は胚の利益のために』を論証した。
- ③ Sustainability の哲学的基礎付けとしての H・ヨナス哲学研究。「なし得る」から「なすべきである」を導出する過程を解明。



ハーダマール精神病院墓地の碑「人間よ！人間を尊重せよ」



「持続可能性」の哲学的基礎付け

シーズ・地域連携テーマ例

- 終末期医療・生殖医療などの生命倫理の諸問題
- 技術者倫理・環境倫理の諸問題

受賞

- 2018年10月 日本医学哲学倫理学会 第12回学会賞

論文

- オランダ認知症患者の安楽死事件——最高裁へ上訴、生きる権利か、死ぬ権利か——, 盛永審一郎, 理想707, 18, 34, 2020, 07
- 遺伝子操作と人間の尊厳, 盛永審一郎, 周産期医学6月号, 889-891, 2020, 06
- Die aktuelle Debatte über Forschung an menschlichen Embryonen und Menschenwürde aus japanischer Perspektive, Shinichiro Morinaga, Zeitschrift für Medizinische Ethik, 57Heft1, 39-52, 2011, 02.

書籍等出版物

- 安楽死を考えるために 思いやりモデルとリベラルモデルの各国比較, 盛永審一郎, 丸善出版, 2023年11月
- 認知症患者安楽死裁判 事前意思表示書「いま」の意 思か, 盛永審一郎, 丸善出版, 2020年12月
- 人受精卵と人間の尊厳—診断と研究利用, 盛永審一郎, リベラタス出版, 2017年07月
- 安楽死法: ベネルクス3国の比較と資料, 盛永審一郎監修, 東信堂, 2016年05月
- ハンス・ヨナス『回想記』, 盛永審一郎他訳, 東信堂, 2010年10月
- ハンス・ヨナス『責任という原理』, 加藤尚武監訳・盛永 審一郎他訳, 東信堂, 2000年05月
- カール・ヤスパース『真理について4』, 上妻精・盛永審一 郎訳, 理想社, 1997年05月

講演・口頭発表等

- 生殖細胞研究—身体倫理と生資本主義の精神、盛永審 一郎, 実存思想協会第27回大会; 2011.06.25
- Über den Begriff "Verbrechen gegen die Menschheit" —Karl Jaspers und Hannah Arendt, 盛永審一郎, 第 23回世界哲学会議; 2013.08.08

競争的資金等の研究課題

- 世界における終末期の意思決定に関する原理・法・文献 の批判的研究とガイドライン作成 科学研究費補助金(基 盤研究B), 2011~14
- オランダ・ベルギー・ルクセンブルクの安楽死法の比較 的研究, ファイザーヘルスリサーチ財団, 第20回2011年 度国際共同研究助成

社会貢献活動

- 放送大学富山学習センター 客員教授 (2001~ 2009)
- レギュラトリーサイエンス学会理事 (2010~2016)
- JBpressコラムニスト (2019~現在)

中村 誠一

特別招聘教授・次世代考古学研究センター長
修士(文化科学)

Seiichi Nakamura

✉ seiichi.nakamura@komatsu-u.ac.jp

研究
Keywordマヤ文明、王朝、コパン、ティカル、文理医融合アプローチ、
文化遺産の保存と活用

プロフィール

1999年 ホンジュラス国立人類学歴史学研究所世界遺産「コパンのマヤ遺跡」ディレクター
 2008年 サイバー大学世界遺産学部 教授
 2012年 金沢大学人間社会研究域附属国際文化資源学研究所 教授
 2020年 金沢大学人間社会研究域附属国際文化資源学研究所長・教授
 2022年 金沢大学古代文明・文化資源学研究所長・教授
 2023年4月 大学院サステイナブルシステム科学研究科特別招聘教授/次世代考古学研究センター長

研究分野

マヤ考古学・マヤ文明王朝史 / 文化資源学・文化遺産の保存と活用

所属学会

古代アメリカ学会、考古学研究会、日本ラテンアメリカ学会

専門分野・研究分野

世界遺産コパンとティカルでの調査研究を通して、遺跡保存
と活用の国際協力を推進する

私の専門は、古典期(紀元 250 ～ 900 年頃)と呼ばれる最盛期マヤ文明の研究です。初めて現地へ渡ってから 42 年にわたる研究歴のうち、後半の 26 年間は世界遺産登録されている遺跡を中心に調査研究して来ました。特に、ホンジュラスのコパンのマヤ遺跡(1980 年文化遺産登録)とグアテマラのティカル国立公園(1979 年複合遺産登録)で発掘調査や修復保存の支援を行っています。また、外務省や JICA、文化庁とも連携し SDGs 達成に向けた文化遺産の保存と活用の国際協力を推進しています。

研究内容

文理医の融合研究によりマヤ王朝史の解明を目指し、文化資
源学的実践研究を推進する

ホンジュラスのコパンでは、宇宙線ミュオンの物質透過力を使った未知の王墓の探索や、コパン王の埋葬の同位体分析やゲノム解析を始め、先端的な文理医融合研究を行って謎の王朝史の解明を目指しています。融合研究の成果とともに、自身がコパンにおける過去の発掘調査で収集した膨大な一次資料を使って、王朝創始期の検証を行い、新たなマヤ文明史の構築を目指しています。一方、グアテマラのティカルでは、コパン王朝創始時期におけるティカル王朝の比較研究を行っています。現在は、建造物 5D-35 の修復保存に注力しており、考古学的な発掘調査は、修復保存作業に伴う事前発掘を中心にを行っています。

文化資源学的研究は、JICA や文化庁とも連携し、世界複合遺産という文化資源・自然資源を活用して、どのようにして自分たちの生活向上につなげていくか、コミュニティ住民や地元行政、カウンターパート政府機関と一緒にその方策を考え、導き出す研修活動をしたり、遺跡の調査や記録、修復保存に必須な三次元計測の方法とそのデータの活用法を教えていく研修事業を行ったりしています。



ホンジュラスの世界遺産「コパンのマヤ遺跡」7号神殿の発掘調査を指揮

マヤ文明遺跡の発掘調査を通して
古代文明の謎に挑む

シーズ・地域連携テーマ例

- 非破壊的手法による考古学調査法の開拓
- 考古学調査における対象別三次元計測法の確立
- 3D技術とAIを使った未解読マヤ碑文の解読への挑戦

受賞

- 外務大臣表彰(2020年12月)
- ホンジュラス国文化功労賞(2006年12月) ほか。

論文

- 中村誠一「マヤ文明コパン遺跡における古典期王権に関する諸問題」『北陸と世界の考古学：日本考古学協会金沢大会資料集』319-322頁。2021年10月。
- Suzuki, S., Seiichi Nakamura, and D. Price, "Isotopic proveniencing at Classic Copan and in the southern periphery of the Maya Area: A new perspective on multi-ethnic society", *Journal of Anthropological Archaeology* 60, pp.1-17, 2020/12 ほか。

書籍等出版物

- Nakamura, Seiichi, et al. *Japanese Contributions to the Studies of Mesoamerican Civilizations*. (Studies in Ancient Civilizations 1), 2023/3.
- 中村誠一『マヤ文明を掘る：コパン王国の物語』、NHK ブックス1086、日本放送協会、2007年6月。 ほか。

講演・口頭発表等

- 中村誠一「革新的科学技術が拓く次世代の考古学研究」公立小松大学市民公開フォーラム、2023年。
- Nakamura, Seiichi, "Cooperación internacional japonesa en arqueología de Honduras" I Jornada de arqueología por conmemoración de IHAH 2022/7. ほか。

競争的資金等の研究課題

- 二国間交流事業オープンパートナーシップ(OP) 共同研究「世界遺産コパンのマヤ遺跡における終末古典期の土器編年の精緻化に関する学際共同研究」2025年4月～2027年3月(研究代表者)
- 科研費基盤研究(S)、「パレオゲノミクスによるマヤ文明コパン王朝のダイナミクス解明」、2022年4月～2027年3月(研究代表者)
- 科研費挑戦的研究(開拓)「宇宙線ミュオンの透視力を活用した重層の石造建造物の非破壊的調査法の開拓」、2023年6月～2026年3月(研究代表者)
- 科研費基盤研究(A)、「世界遺産コパンのマヤ遺跡における王朝創始時期とそのプロセスの解明」、2018年4月～2022年3月(研究代表者)

社会貢献活動

- 文化庁 文化遺産国際協力拠点交流事業、実施責任者(2021年4月～2026年3月)
- JICA草の根技術協力事業(ホンジュラス)、実施責任者(2025年～)
- 文化遺産国際協力コンソーシアム、中南米分科会委員(2010年4月～現在)、分科会会長(2024年4月～) ほか。

小川 雅洋 特任助教 修士(文学)

Masahiro Ogawa

✉ masahiro.ogawa@komatsu-u.ac.jp

研究 Keyword

マヤ南東地域、ホンジュラス、グアテマラ、黒曜石、マヤ球技

プロフィール

2016年3月 同志社大学 文学部 文化史学科 卒業
2018年3月 金沢大学大学院 人間社会環境研究科 博士前期課程 修了
2020年4月 北陸大学 経済経営学部 非常勤講師
2023年4月 公立小松大学 大学院サステイナブルシステム科学研究科/次世代考古学研究センター 特任助教

研究分野

マヤ考古学、文化資源学

所属学協会

古代アメリカ学会、グアテマラ・マヤ文化協会、日本測量協会

専門分野・研究分野

マヤ文明における地域間交流解明に向けた考古学資料の分析とその価値・活用法の模索

私は、考古学的な調査によって出土した遺物や遺構、特に黒曜石や球技場を研究資料として扱っています。その際、蛍光X線分析を用いた黒曜石の分析、三次元測量を用いた遺跡の記録等のように、異分野融合や最先端技術を用いた研究法にも積極的に取り組みつつ、マヤ文明圏南東端の地域間交流を研究しています。

また、上記のような遺物や遺跡は学術的価値だけでなく、教育や地域活性化、観光に活用されたり、アートや趣味としての価値も生まれ始めたりしています。このように、文化資源の新たな価値の発見、保護、活用にも目を向けています。具体的には、ホンジュラスやグアテマラにおいて、博物館展示等の活動、JICA や文化庁の委託事業等を通じた文化遺産保護や地域開発、国際貢献に携わっています。

研究内容

「周縁」としてのマヤ南東地域における地域間交流の研究

私が研究対象にしている地域はマヤ文明圏であり、特に、中米のホンジュラス西部に位置するコパン遺跡における調査研究を続けています。このコパン遺跡は、「コパンのマヤ遺跡」として世界文化遺産に登録されており、マヤ文明を代表する遺跡と言えます。また、コパンはマヤ南東地域に属しており、マヤ文明圏における南東端および「周縁」に相当しています。つまり、マヤ地域と「非マヤ」地域の境界線にあたり、様々な集団同士による文化的接触がなされていた地域でもあります。

こうしたマヤ南東地域における地域間交流がマヤ文明の繁栄やマヤ南東地域の社会的・経済的発展にどのように寄与していったのかを明らかにしようとしています。その一環として、蛍光X線分析を用いた黒曜石の原産地同定やマヤ球技をはじめとする文化要素の比較を行っています。



コパン遺跡 球技場



LiDARを用いたコパン遺跡の三次元計測



蛍光X線分析による黒曜石の原産地同定



マヤ文明圏の南東端から往時の地域間交流を考える

シーズ・地域連携テーマ例

- マヤ文明
- 中米における日本の国際協力
- 石文化

論文

- Ogawa, Masahiro. "Source Analysis of Obsidian Artifacts from the Southeastern Maya Region: Focusing Particularly on the La Entrada region and the Outer Periphery", In Seiichi Nakamura, Takuro Adachi and Masahiro Ogawa (eds.), *Japanese Contributions to the Studies of Mesoamerican Civilization (Studies in Ancient Civilizations 1)*, Institute for the Study of Ancient Civilizations and Cultural Resources, pp. 23-33, 2023.
- 小川雅洋「マヤ南東地域における地域間交流の研究 ―ホンジュラス、アサクアルパ遺跡出土の黒曜石資料の分析を中心に―」『金沢大学考古学紀要』42号、pp.99-112、2021年。

書籍等出版物

- Nakamura, Seiichi, Takuro Adachi and Masahiro Ogawa. *Japanese Contributions to the Studies of Mesoamerican Civilization (Studies in Ancient Civilizations 1)*, Institute for the Study of Ancient Civilizations and Cultural Resources, 2023.

講演・口頭発表等

- 小川雅洋「中米グアテマラ共和国におけるJICAと連携した草の根技術協力事業（2014～2022）とその後の展開について」、文化遺産国際協力コンソーシアム第22回中南米分科会、2024年。
- 小川雅洋「マヤ文明世界遺産における次世代考古学研究センターの国際協力」公立小松大学市民公開フォーラム、2023年。
- 小川雅洋「マヤ南東周縁部における黒曜石交易ネットワークの研究 ―ホンジュラス、アサクアルパ遺跡出土の黒曜石資料分析を中心に―」、第25回古代アメリカ学会（オンライン開催）、2020年。 ほか。

競争的資金等の研究課題

- 科研費基盤研究（C）、「コパン王朝の黒曜石交易の高解像度化：マヤ南東地域の黒曜石産地判別の細分化の試み」、2025年4月～2028年3月（研究代表者）
- 公益財団法人高梨学術奨励基金 若手研究助成 若手研究助成「マヤ南東地域における黒曜石交易の通時的変化に関する研究 ―コパンとラ・エントラダ地域出土の黒曜石資料の比較をもとに―」2023年4月～2024年3月

社会貢献活動

- JICA草の根技術協力事業「ティカル国立公園の観光回廊における人材育成と組織化支援プロジェクト」現地協力員（2021年4月～2022年3月）
- JICA草の根技術協力事業「ティカル国立公園の観光回廊における人材育成と組織化支援プロジェクト」国内調整員（2022年4月～2022年12月）